

自動運転基準化研究所 概要

Overview of IACVS, Japan

(Institute for Automated and Connected Vehicle Standardization, Japan)

自動運転基準化研究所

所長 河合 英直

Director of the Institute

Terunao KAWAI

設立の経緯

- 2015年2月
経産省製造産業局長と国交省自動車局長の検討会「自動走行ビジネス検討会」設置。
我が国自動車産業が、成長が見込まれる自動走行分野において世界をリードし、交通事故等の社会課題の解決に貢献するため、必要な取組を産学官オールジャパンで検討することを目的。
- 2016年3月
検討会のアウトプットの一部として
 - ・自動走行の将来像の共有
 - ・国際的なルールである基準、標準づくりに向けた体制の整備が方針として打ち出された。

背景, 目的

- 今後、大きな成長が見込まれる自動運転の分野において、我が国自動車メーカー等の国際競争力の強化を図るため、官民一体となって国際基準化の議論を主導する必要がある。
- 具体的には、自動運転に係る国際基準調和活動を自動運転基準化研究所^(※1)に一元化し、迅速かつ効果的な活動を推進する。

2016年5月24日 自動運転基準化研究所 設立

※1 研究所はバーチャルなものとし、特別な施設等を設置するものではない。また、設置期間は、2016年度より3～5年間程度を想定。

国際的なルールづくりに向けた体制の整備

「基準と標準をつなぐ戦略的な検討を行う場を設置し、自動走行に係る重要なテーマについて基準化と標準化の国際動向を共有するとともに、我が国としての将来像を踏まえ、国際的な活動をリードできる戦略づくりを進めていくべきである。」

【自動走行ビジネス検討会 報告書『今後の取組方針』 抜粋】

国土交通省

国際基準

自動車基準調和世界
フォーラム (WP29)

自動車基準認証
国際化研究センター (JASIC)
※平成27年度の場合

国際的なルール(基準・標準)に
ついての横断的な情報共有や
戦略検討

自動運転基準化研究所
(2016年5月24日, 設立)

経済産業省

国際標準

国際標準化機構(ISO)等

自動車技術会等

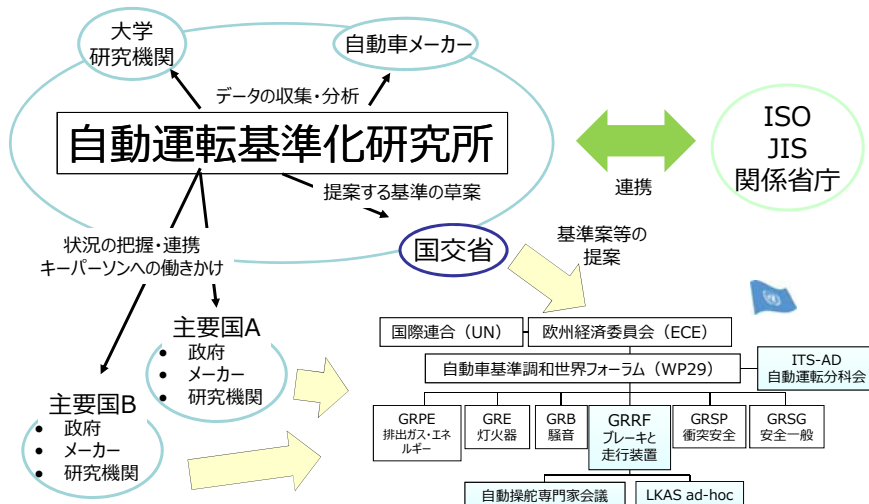
自動運転の国際基準化にオールジャパンで対応するための
官民からなる連携組織

研究所の役割

自動運転に関する国際基準策定に関する全体戦略を構築するとともに以下の活動を統括する。

- (1) WP29の自動運転に係る議論への対処方針の検討
 - GRRFでの自動運転の議論（ACSF-IWG、新規則制定）
 - ITS-ADの議論
- (2) (1) に対応するための基礎調査・研究
 - e-security（ハッキング対策）等
- (3) 主要国政府・メーカー、研究機関との連携、働きかけ
- (4) 自動運転に関する標準化活動との連携（経産省、ISO/JIS）
 - TC22、TC204での自動運転の議論
 - 自動運転標準化検討会（自技会）との連携
- (5) 国内外の自動運転を巡る状況に関するシンポジウムの開催
 - Today

自動運転標準化研究所



体制

自動車基準認証国際化研究センター
JASIC

自動運転基準化研究所

Institute for Automated and Connected
Vehicle Standardization, Japan

所長：河合 英直
(自動車技術総合機構/交通安全環境研究所)

副所長：横山 利夫 (自工会 (ホンダ))
塩見 幸広 (自工会 (トヨタ))

メンバー (約50名)

- ・ 国土交通省
- ・ 経済産業省
- ・ 自動車技術総合機構/交通研
- ・ JAMA 自動車工業会 (自動車メーカー)
- ・ JAPIA 部品工業会 (部品メーカー)
- ・ 自技会 (標準化関係代表)
- ・ JAIA, ITS Japan 等

基準と標準の連携

2016年度「現状の認識共通化と大方針の決定」

- ・ 自動操舵に関する基準化, 標準化項目の現状を取りまとめ
- ・ 現状に対する認識を共通化

2017年度「個別課題への具体的対応」

- ・ 各検討必要項目に対して「基準・標準連携検討TF」の設置
- ・ 自動運転に係わる基準化, 標準化対象項目の抽出・整理
- ・ 連携検討のロードマップおよびアクションプランの作成

最後に,

「夢の実現」ではなく,
「夢の現実化」

自動運転を実現することではなく,
自動運転を現実の物にすることが我々の役目.